

女性の早期離職に関する考察

——短大卒者・大卒者を比較して——

淑徳短期大学 中村三緒子

1. 研究の目的

厚生労働省「保育人材確保のための『魅力ある職場づくり』に向けて」（2014年）によると保育士の人手不足の現状として、指定保育士養成施設卒業者のうち、約半数は保育所に就職していないこと、資格を有しながら保育士として就職を希望しない求職者のうち、半数以上が勤務年数5年未満であり、早期離職の傾向が顕著である。保育士職への就業を希望しない理由のうち、就業継続に関する項目として「責任の重さ・事故への不安」が最も多く、再就職に関する項目は「就業時間が希望と合わない」が最も多い。働く職場の環境改善に関する項目は、「賃金が希望と合わない」が最も多く、「休暇が少ない・休暇がとりにくい」ことなどがあげられた。保育士職への就業を希望しない理由が解消した場合、63.6%の者が保育士を希望していた。

これまで保育者が早期離職する問題と就業継続について研究はなされ、保育者の人材確保に向けて様々な対策が講じられているものの早期離職は継続傾向にある。本研究は、早期離職に関する先行研究を整理し、保育職を早期離職する要因を再検討し、女性の就業について検討したい。

2. 使用データ

高等教育機関を卒業した女性の職業経歴に制度や仕事意識などが与える影響を検討するため、2014年2月中旬～下旬、中部圏A女子大学（偏差値50、創立100年の歴史があり、家政学部、文学部、短期大学部を有する）の卒業生を対象に調査を行った。有効回収票は1530票（有効回収率16.3%）であった。対象者は「雇用機会均等法」施行以後に大学を卒業し、就職した世代とした。3. 結果・まとめ 先行研究で指摘されてきた「労働条件」「人間関係」「やりがい」などと転職経験は有意な結果ではなかった。本研究の未婚者の半数以上が転職していなかったことなども要因と考えられ、女性の就業離職・就業継続は「労働条件」「人間関係」「やりがい」などだけではなく、様々な要因が複合的に影響を与えていると考えられる。

無業既婚者の多くは就業を希望し、仕事をする上で重視することは学歴・卒業時期に関係なく「育児と両立できること」が最も多い結果であった。女性の就業には育児との両立が可能な職場環境や労働条件が必要であることが再確認できる。資格取得を目指して大学に進学し、身につけた資格を活かして仕事を継続できることが理想であることも明らかになった。保育職は資格を必要とする職業であり、「やりがい」のある仕事であるが、早期離職する要因は「労働条件」「人間関係」だけでは説明できないように思われる。保育職を希望する学生から就職しても「すぐに辞める」予定と就職前から聞くことが多い。じっくり就職活動を行う場合には就職先を理解し、納得して就職するため、早期離職は考えにくい、就職活動を安易に終わらせる場合に多いように思われる。就職活動前の大学や大学入学前の中学・高校時代からの職業教育が充実していることが重要と思われる。

参考文献

- 本田由紀 2010, 「日本の大卒就職の特殊性を問い直す」荻谷剛彦・本田由紀編『大卒就職の社会学』東京大学出版会。
中西祐子 1998, 『ジェンダー・トラッキー青年期女性の進路形成と教育組織の社会学―』東洋館出版。
中野円佳 2014, 『「育休世代」のジレンマ―女性活用はなぜ失敗するのか?』光文社。

本研究は JPSS 科研費 23531138 の助成を受けました。